

各系統の特徴について

作成日: 2009年10月1日

これらの情報は弊社での生産・飼育の経験上のもので、お客様への情報提供を目的に作成されたものです。動物の特性は多くの環境(試験操作含む)によっても変化しますので、それぞれに示した情報は各系統の不変的な特徴を示すものではないものも含まれることをご了承ください。

種	系統	飼育上の注意点	発生しやすい外観異常	備考
マウス	C57BL/6J	初産は親が仔供を食殺し易い 離乳仔は音に敏感 自動給水の場合、給水ノズルに床敷を詰め込む事	脱毛 無眼、小眼、白濁等の異常(出荷時に除外され尾切れ)	脱毛やヒゲ無しは舐め合いで発生する。これらの発生率はケージ単位で異なる事がある
	BKS.Cg-Dock7 tm /+ ⁺ Lepr ^{db} /J (db/db)	多尿 飲水ノズルは低い位置に設置する(肥満のため立ち上がれない) 稀に突然死が発生する Leanタイプは良く飛び跳ねる	ヒゲ無し 脱毛 高週齢で陰茎露出	Fattyタイプは非常に大人しい 突然死した動物は、胸腔内に出血があることが多い
	B6.V-Lepr ^{ob} /J (ob/ob)	多尿 飲水ノズルは低い位置に設置する(肥満のため立ち上がれない) 稀に突然死が発生する	高週齢で陰茎露出 無眼、小眼、白濁等の異常(出荷時に除外される)	Fattyタイプは非常に大人しい 手に持つと冷たく感じる 突然死した動物は、胸腔内に出血があることが多い
	CB17/Icr-Prkdc ^{scid} /CrjCrlj (NOD-scid)	音に敏感 ケージ内を動き回っている事が多い 活発であるが、飛び跳ねる事は少ない	長期的には高週齢ではほぼ全ての個体で尾曲がりや耳切れが発生 毛の艶少なく毛並みが悪く見える	
	Crij:CD1(ICR)	ケージ内の床敷を片側に寄せる 週齢の高いオスはファイティング(闘争)し易い 特に交配経験を持つ雄はファイティングが顕著 ファイティング防止に、特に高週齢において、ケージ内の群構成は極力変えない方が良い		
	BALB/c AnNcrjCrlj	低週齢よりファイティングを発生し易い ファイティング防止のため、ケージ内の群構成は極力変えない方が良い 初産は死産が発生し易い 分娩間隔が比較的安定している	尾の傷 爪折れ 陰閉塞(不完全なものを含む)	ファイティングによる傷は尾に付き易い 爪が弱く、通常飼育時で、爪折れが容易に発生する
	C57BL/6NcrjCrlj	音に敏感 ファイティングは少ないが、交配経験を持つ雄は起こしやすい 離乳仔は摂水行動が下手なため、飲水ノズルは低めの目立つ位置に置く	脱毛 無眼、小眼、白濁等の異常(出荷時に除外される)	脱毛は腹部に多い
	C3H/HeNcrjCrlj	哺育後の雌はファイティングを起こしやすい		
	DBA/1JNcrjCrlj	臆病な性格 不意に触ると噛み付くこともある 高く跳びあがり易い(ケージ交換時に逃亡し易い)		
	DBA/2NcrjCrlj	臆病な性格 離乳仔は摂水行動が下手なため、飲水ノズルは低めの目立つ位置に置く 高く跳びあがり易い(ケージ交換時に逃亡し易い)		
	CBA/JNcrjCrlj	2~3週齢の動物は軟便が多い	脱毛 ヒゲ無し	脱毛やヒゲ無しは舐め合いで発生する。これらの発生率はケージ単位で異なる事がある
	B6D2F1/Crlj	オスはファイティングが多い 活動性は高い ファイティング防止のため、ケージ内の個体は極力変えない方が良い	脱毛 耳切れ	脱毛、耳切れはファイティングに起因する例がある 脱毛は舐め合いで発生する。これらの発生率はケージ単位で異なる事がある
	CD2F1/Crlj	不意に触ると噛み付くこともある 高く跳びあがり易い		
	B6C3F1/Crlj		腹部脱毛	腹部脱毛はファイティングで起こり易い 脱毛は舐め合いで発生する。これらの発生率はケージ単位で異なる事がある
	NC/NgaTndCrlj	♂はファイティングする傾向が強いため、群飼いの場合、実験終了まで群構成を変えないよう工夫が必要	4週齢~6週齢にかけて脱毛が多い 尾曲がり 高週齢の雌は毛色がやや黄色味がかかる	
	SJL/JOrjCrljCrlj	8週齢でほぼ100%のオスがファイティングを起こす 個別飼育を推奨 自動給水の場合、給水ノズルに床敷を詰め込む事	脱毛(♂の高週齢で多い)	脱毛はファイティングが主な原因 自己免疫疾患モデルのため、加齢に伴い尾の壊死等の異常が発生する事があります。
	Crlj:CD1-Foxn1 ^{nu} (ICR nude)	オスは低週齢よりファイティングを発生し易い 個別飼育を推奨 無毛のためケージ内温度は25~26℃が適温	5週齢と8週齢で体に産毛が生えるが、1週間以内に消失する。 目ヤニが出やすい	産毛が多いと体毛が生えたように見える
	CAnN.Cg-Foxn1 ^{nu} /CrljCrlj (BALB/c-nude)	オスは低週齢よりファイティングを発生し易い 個別飼育を推奨 無毛のためケージ内温度は25~26℃が適温	被毛が無いため、ファイティングにより傷が生じ、皮膚に点状出血が観察される。 5週齢と8週齢で体に産毛が生えるが、数日で消失する。 ストレスで軟便や下痢を起すことが稀にある	産毛が多いと体毛が生えたように見える
CB17/Icr-Prkdc ^{scid} /CrljCrlj (CB17-)	手に乗せると暴れたり鳴いたりすることがある	脱毛 ヒゲ無し	脱毛は舐め合いで発生する。これらの発生率はケージ単位で異なる事がある	
ラット	Crl:CD(SD)	臆病で大人しい。急な刺激に対しては噛み付くこともある。 オスよりメスが素早い	一過性の軟便 紅涙(特に妊娠動物)	ストレスに起因
	Crl:WI (Wistar)	SDラットよりも活動性は高い	SDと比べると脱毛の発生が多い	
	F344/DuCrjCrlj	子供の食殺がある 性周期が不安定であり、2節目以降の分娩間隔が不音に敏感	軟便 紅涙 不正咬合の発生はSDやWistarより多い	軟便も紅涙もストレスに起因
	LEW/CrlCrlj	近交系としては繁殖性は安定している 妊娠個体が判別し易い	稀にメスの外尿管が赤く腫れる 紅涙	
	BN/CrlCrlj	交配経験を持つ雄はファイティングし易い 普段は大人しいが、逃亡した時は素早い 高く飛び跳ねる 音に敏感 分娩間隔がばらつき易い	脱毛や痲皮形成が観察される事がある	相互に舐めあう事で発生する
	SHR/NCrjCrlj	週齢が高くなるとファイティングが多い 気性はやや激しい、または落ち着きがない		WKYと比べるとSHRは顔がやや丸い
	WKY/NCrjCrlj	SHRと比べ非常に大人しい		SHRと比べるとWKYは顔がやや細い
	Crlj:ZUC-Lepr ^{fa} (Zucker)	Fattyタイプは仰向けに寝ることが多い 口に餌を加えたまま寝ることもある 哺育中のメス(Leanタイプ)は気が荒くなる	Fattyタイプは高週齢で生殖器と肛門周辺に炎症を起こしやすい	
	ZDF-Lepr ^{fa} /CrljCrlj	多尿 ケージトップを頭で押し上げることもある 給水ノズルに床敷を詰めることがある	眼の白濁 眼球突出	糖尿病動物のため独特の臭い 好奇心はZuckerよりも旺盛